

福山市立女短大 加納 ミチ子

目的：演者はこれまで、主婦の女性観の違いが食生活への意識や食生活の実態に影響をおよぼしていることを明らかにして来た。しかし食生活とかわる要因は多岐にわたり、これらが相互に影響しあっているのが今日の我々の食生活であると考えられる。本報では、女性観、食品摂取状況と社会意識・食生活意識・食生活の実態との相互の関連性について検討を加えた。

方法：調査対象—広島県F市役所勤務の既婚女子組合員812名(有効回収率93.8%)
 調査期間—昭和55年6月24日～30日1週間の据置調査 調査内容—社会意識および主婦の女性観、食生活に対する意識、食生活の実態 本報では女性観と食品摂取状況を軸として社会意識や食生活意識、食生活の実態について検討した。

結果：女性観、基礎的食食品摂取を軸とした場合、女性観と社会意識・食生活意識・食生活の実態との間に関連がみられた。中でも社会意識、食生活意識との関連が強くみられた。

- ・女性観・加工食品摂取を軸とした場合、女性観と社会意識・食生活意識・食生活の実態との間および加工食品とこれらの間に関連がみられた。中でも社会意識、食生活意識との関連が強くみられた。
- ・女性観・嗜好食品摂取を軸とした場合、女性観と社会意識、食生活意識、食生活の実態との間に関連がみられた。この場合はいずれの側面とも関連がみられた。